

ストップ



# 特殊詐欺被害



息子や孫をかたって現金を要求する「オレオレ詐欺」や未公開株、社債やファンドの売買を装った詐欺が発生。

## ！キーワードが1つでもあれば オレオレ詐欺

「風邪をひいた」と言って、声や話し方がいつもと違う

「電話番号が変わった」「携帯電話をなくした」

「通帳や現金の入ったカバンをなくした」

「会社のお金を使い込んだ」「不倫をして示談金が必要だ」

「すぐにお金が必要だ」

「代わりの者がお金を取りに行く」

## 次のキーワードも同じく詐欺

「ATMで還付金を返す」

「未公開株を買い取る」「必ず儲かる」

「レターパック、宅配便でお金を送れ」



## 被害を防止するためのポイント

### 手順1 「キーワード」が1つでもあれば 電話を切る

「お客さんが来たから、一度切るよ」

「鍋に火をかけているから、後でかけなおすよ」

などと言って、電話を切りましょう！



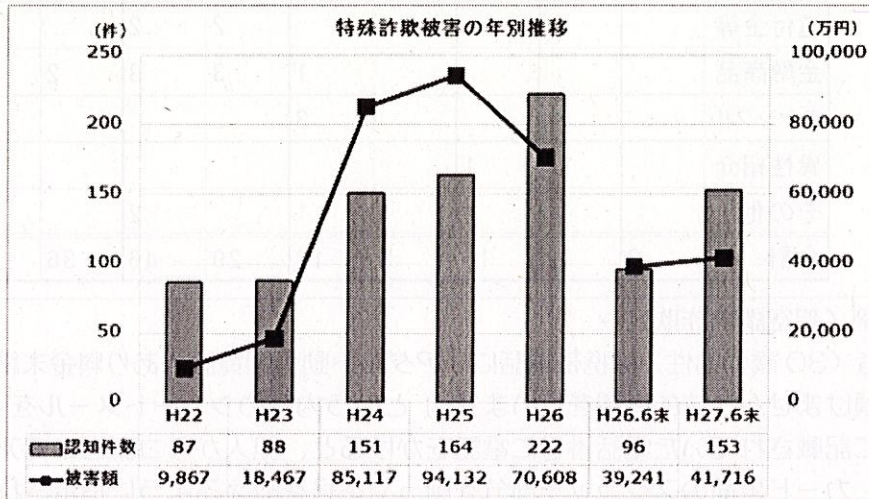
### 手順2 電話を切ったら 気持ちを落ち着かせて、警察や家族に相談



1 特殊詐欺の認知状況

(1) 平成27年6月末の認知状況

- 認知件数は153件（前年比+57件、+59.4%）
- 被害額は、4億1,716万円（同+2,475万円、+6.3%）
- 息子や孫等を騙るオレオレ詐欺が74件、被害全体の48.4%
- 警察に通報があった特殊詐欺の不審電話は1,318件（昨年比+29件）
- 特殊詐欺の受け子（現金の受け取り役）等の検挙は16件、通帳詐欺等の特殊詐欺を助長する犯罪の検挙は24件

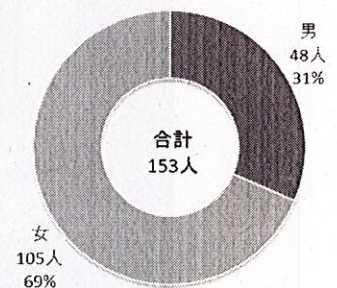
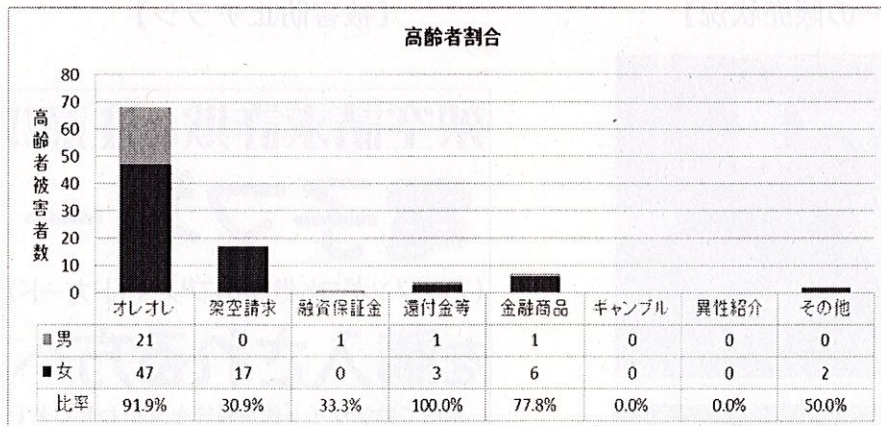


(2) 高齢者（65歳以上）の被害状況

- 高齢者の被害は99件で、全体の64.7%
- オレオレ詐欺では、高齢者の割合が91.9%

(3) 被害者男女別

女性の被害が69%占める。



～被害事例（オレオレ詐欺）～

被害者（80歳代女性）は、孫を名乗る男からの電話で、「風邪を引いて声が変わった。病院へ行ったら、会社の書類と携帯電話、会社の通帳が入っていたカバンをなくした。800万円必要だが通帳がなくておろせない。上司が500万円用意してくれたが、300万円足りない。明日には返す。」等と言われ、新しい電話番号を教えられた。その後、被害者方に孫の上司を名乗る男からも電話があり、「銀行でお金をおろす時は、孫に渡すと言わないように」と指示を受け、被害者は、金融機関で家具を購入すると嘘をついて現金を引き出した。

被害者は、現金を引き出した後、犯人から教えられた電話番号に電話をし、自宅近くの病院前に呼び出され、孫の知人と名乗る男に現金300万円を手渡した。



(3) 架空請求詐欺の特徴

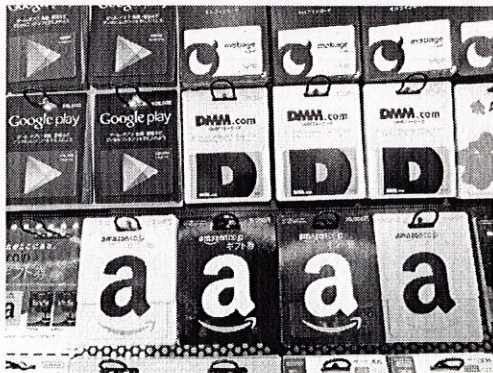
- 架空請求詐欺は、幅広い世代で被害が発生している。中でも若い世代の被害では動画サイトの退会名目等による請求が多い。
- コンビニエンスストア等で販売されているアマゾンギフト券等の電子マネーで支払いをさせる新たな手口が現れている。

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	総数
オレオレ			1		1	15	26	31	74
架空請求	2	9	7	7	7	8	12	3	55
融資保証金			1			1	1		3
還付金等						2	2		4
金融商品					1	3	3	2	9
ギャンブル					3				3
異性紹介			1						1
その他				1	1		2		4
合計	2	9	10	8	13	29	46	36	153

～被害事例（架空請求詐欺）～

被害者（30歳代男性）は携帯電話に「アダルト動画閲覧歴があり料金未納のため、本日中にご連絡頂けませんと法的措置を行います。」という内容のショートメールを受信した。被害者がメールに記載されていた電話番号に電話をかけると、犯人からコンビニでアマゾンギフト券を購入し、カード裏面のスクラッチ部分を削って番号を教えるように指示され、アマゾンギフト券26万8000円分を購入し、犯人に電話で番号を伝えた。

【電子マネーの販売状況】



【被害防止チラシ】

**架空請求詐欺に注意!!**

**電子マネー**

(アマゾンギフト券等のプリペイドカード)

**を購入される方へ**

県内で動画サイト使用料等を支払わせる名目で、数十万円もの「アマゾンギフト券」や「パニラオンラインカード」などの電子マネー（プリペイドカード）を購入させ、カード番号をFAXや携帯電話で連絡させて購入代金をだまし取る架空請求詐欺が多発しています。

◎ 電子マネー等を購入しようとしている方、動画サイトの使用料等を電子マネー等で送金するよう携帯電話で指示されていませんか？  
「その支払いは本当に必要ですか？」

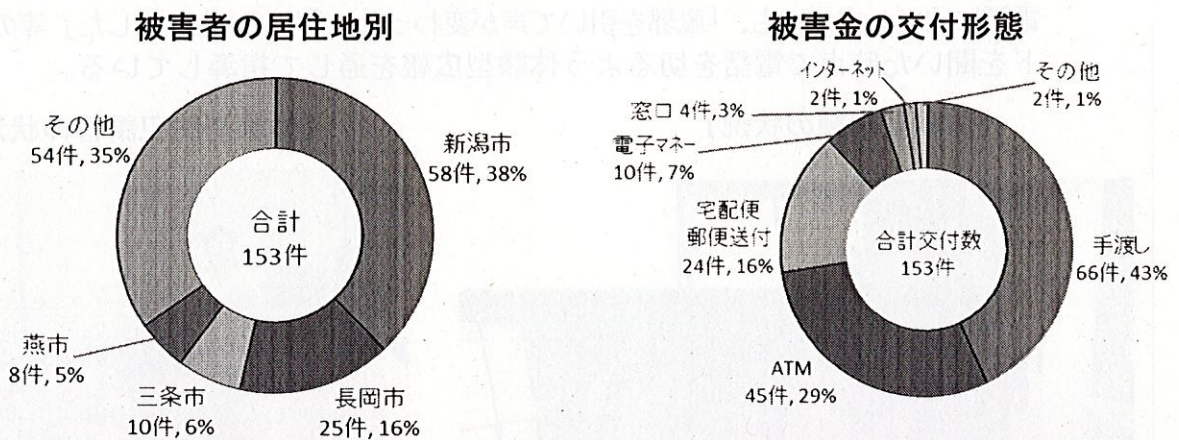
◎ 有料サイト料金の支払いについては、警察へ相談して下さい。



阿賀野警察署 0250-63-0110



#### (4) 被害者の居住地別と被害金の交付形態



- 新幹線沿線の市町村における被害が多く、現金を犯人に手渡しする被害が 66 件
- 手渡し被害 66 件のうち、58 件は、犯人が被害者の自宅付近に現金を受け取りに来ている。他の 8 件は、被害者が新幹線に乗車し、首都圏に現金を持参している。
- 被害者に ATM を操作させて被害者の口座から犯人の口座に現金を送付させる還付金詐欺では、犯人に指示されてスーパーやコンビニ設置の ATM から送金することが多い。

#### ～被害事例（上京型）～

被害者（70歳代女性）は、自宅に長男を名乗る男から「風邪を引いて声が変わった。医者に行ってからまた電話する」との電話を受けた。数時間後、再び長男を名乗る男から「実は、仲間と株をやって大損してしまった。仕事先の金も使い込んでしまった。金を用意して欲しい」との電話を受けた。

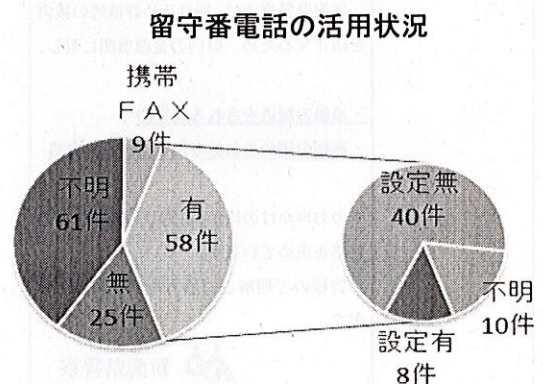
被害者は、一人で金融機関に行き、現金を引き出そうとしたが、職員から「振り込め詐欺の可能性があるので」と言われ、一旦は現金の引き出しを断念した。

被害者は自宅に戻ると、夫に事情を話し、夫とともに、別の金融機関に行き、職員を説得して、現金 750 万円を引き出し、自宅に保管していた 50 万円と合わせて現金 800 万円を用意した。自宅に戻ると、長男を名乗る男から再び電話があり、「今、東京にいるから現金を届けに来て欲しい」「上野駅まで新幹線で来て欲しい」等と言われた。被害者は、電車と新幹線を乗り継いで JR 上野駅に行き、更に、JR 日暮里駅まで来て欲しいとの指示を受け、日暮里駅近くの路上で長男の友人を名乗るスーツ姿の男に紙袋に入れた現金 800 万円を手渡した。

## 2 「ニセ電話デレンワ作戦」等の実施

### (1) 留守番電話・ナンバーディスプレイの利用

- 「知らない人からの電話には応じない」を指導
- 実際に特殊詐欺の被害にあった被害者のうち、68%の被害者は、留守番機能があっても留守番電話の設定をしていなかった。

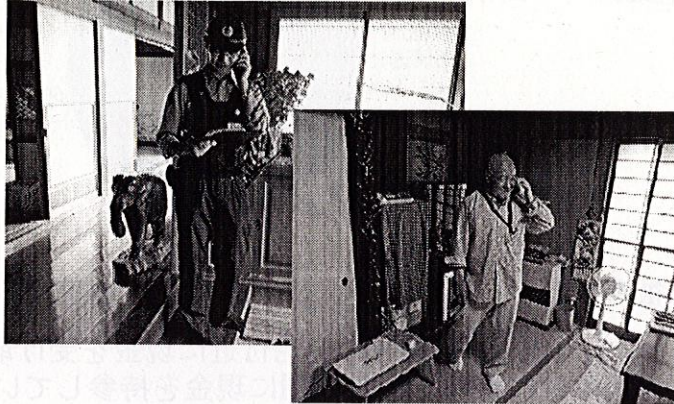




## (2) ニセ電話デレンワ作戦

- 県警では、留守番電話の活用が低い現状を踏まえ、「ニセ電話デレンワ作戦」を実施し、電話に出てしまっても、「風邪を引いて声が変わった」「カバンをなくした」等の、キーワードを聞いた時点で電話を切るよう体験型広報を通じて指導している。

【体験型訓練の状況】



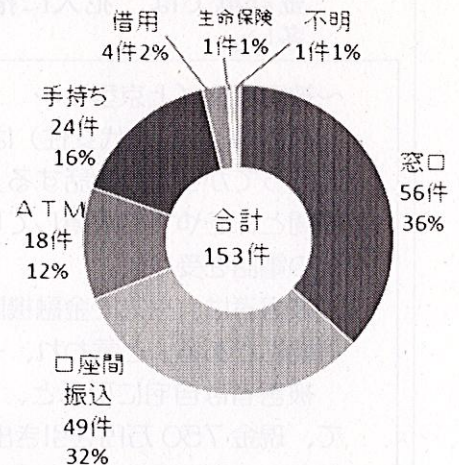
【体験型防犯講習の状況】



## 3 「水際シャットアウト作戦」の実施

### (1) 「水際シャットアウト作戦」の概要

- 窓口・ATMでの引き出し、口座間振込により80%は金融機関等を利用している。
- 金融機関の窓口等における現金引き出しの際に声掛けを強化していただき、高額な現金引き出しの際には、預金（貯金）小切手（現金化する際に身元確認などが必要）を勧めてもらい、警察への通報をする水際シャットアウト作戦を実施している。



【声掛けツール等を活用した声掛け訓練の様子】


### 警察からのお願い

新潟県警察では、振り込め詐欺等の被害を防止するため、県内の金融機関に対し、

- ・高額の振込をされるお客様
- ・高額の現金をお持ち帰りになるお客様

へのお声かけのほか、最寄りの警察署への連絡を求めています。

皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

 新潟県警察





## (2) 「水際シャットアウト作戦」の実施効果

- 本年6月末の未然防止件数は126件で、前年同期と比べ41件増加
- 未然防止金額は3億2,680万円で、前年同期と比べ1億6,441万円増加
- 金融機関における未然防止が110件で、全体の87.3%を占める(2億9,651万円)

	未然防止件数		未然防止金額(万円)	
		前年同期比		前年同期比
総数	126	+41	32,680	+16,441
金融機関	110	+41	29,651	+14,753
コンビニ・宅配等	9	+5	1,329	+1,009
その他	7	-5	1,700	+679

※ その他は、家族や知人、ホームヘルパーなどが阻止したもの

### ～未然防止事例～

#### ○ 金融機関による未然防止事例

金融機関窓口で80歳代の女性が訪れ、200万円の引き出しを依頼した。対応した職員は、高齢者による高額な引き出しであったことから、備え付けの「特殊詐欺被害防止チェックシート」を利用して用途を尋ねたところ、女性が「自宅のリフォーム資金」と答えたため、不審に感じた職員が更に詳細を尋ね、その内容からオレオレ詐欺であると判断し、警察に通報して被害を未然に防止した。

#### ○ コンビニエンスストア店員による未然防止

コンビニエンスストアにおいて、同店店員が40歳代と20歳代の親子が携帯電話を使用しながら電子マネーを選んでいる姿を目撃した。その様子が携帯電話で指示を受けているように見えたため、親子から事情を聞くとともに、電話先の相手と直接話したところ、アダルトサイトの料金未納名目の架空請求詐欺であると判断し、親子を説得して被害を未然に防止した。

#### ○ スーパー店員による未然防止

被害者(80歳代女性)は、市役所職員を名乗る男から「税金を還付するので手続きをしてください。」などと言われ、スーパーのATMに行くよう指示を受けた。スーパーの女性店員が携帯電話で電話をかけながらATMを操作している被害者の姿を目撃し、還付金詐欺を疑い警察に通報し被害を未然に防止した。

#### ○ 高齢者介護事業団体が連携した未然防止

被害者宅に介護ヘルパーが訪問介護中、被害者が息子を名乗る男からの電話に対応しており電話終了後、ヘルパーが電話の内容を聞き取ったところ、「息子がカバンを落として金があると知っている。これから取りに来る。」と答えたため、オレオレ詐欺の電話であると直感し、所属事務所に報告した。同事務所は、即座に本当の息子に電話をして真偽を確認するとともに、警察に通報して被害を未然に防止した。